

鉄心齋文庫は、三和テック株式会社社長であった芦澤新二・美佐子氏夫妻が半世紀以上の歳月をかけて蒐集したコレクションである。戦後の高度経済成長長期に気鋭の実業家として活躍した新二氏は、歴史、芸術、文学などに対する深い造詣を持つ文化人でもあった。多忙な日々のなかで夫妻が蒐集した資料は、典籍、錦絵、短冊、仏像など多岐にわたる。とりわけ『伊勢物語』については、時代や分野を問わず資料を求め、その数一千点を超える一大コレクションが形成された。新二氏没後、美佐子氏は文庫のさらなる拡充と一般公開を行ってゆく。

『伊勢物語』が成立して千年以上が経つが、これほど情熱的な蒐集はほかに例をみない。『伊勢物語』と人が結んできた歴史のなかで、鉄心齋文庫は特異な存在ということができる。二人がコレクションをどのように築いていったのかを紹介する。

二人して集めこし伊勢物語一千余点の思ひはふかし

(芦澤美佐子『ひたすら生きる』短歌新聞社、一九八九年)

(藤島綾)

かねて古書に関心を寄せていた芦澤新二氏（一九二四～一九八九）の蒐書対象が『伊勢物語』に大きく傾いたのは、昭和二十年代、古書店での阿波国文庫本の購入がきっかけだったという。新二氏は少年時代から『伊勢物語』にふれる機会があり、心惹かれていたものらしい。阿波徳島藩旧蔵の古写本（しかもこれらは屋代弘賢旧蔵本でもあった）を数点まとめて入手した喜びは大きかった。戦後復学した明治大学で岩間美佐子氏（一九二八～）と出会った新二氏は、昭和二十四年（一九四九）、美佐子氏の父千仞氏が経営する三和鉄軌工業株式会社へ入社し、美佐子氏と結婚する。その後社長に就任、日中友好運動などさまざまな社会活動に参画する。夫妻の暮らしのなかで、「私どもの子供」と呼ぶ『伊勢物語』はやがて一千点を超えるコレクションへと成長してゆく。

新二氏が雅号「鉄心齋」を名乗り始めた時期や典拠については不明な点も残るが、かつて氏は、三百点を超えるコレクションの保全のために、先年品川区大井町の自宅に鉄筋書庫を建て、社業にちなんで「鉄心齋文庫」と命名したと昭和四十三年に述べている（『鉄心齋文庫蔵伊勢物語通具本』あとがき、築地書館、一九六八年）。また、昭和三十四年購入の『伊勢物語』「九八―四〇四」の箱には「一九五九年二月二十二日／三十六回誕生日記念／芦沢鉄心齋／京都富山房」と墨書しており、すでに昭和三十年代半ばにはこの号を用いていたものかと思われる。

夫妻は『伊勢物語』を各地の古書店より購入すると、基本情報（書誌・購入日など）を記入したカードとともに手製の薄茶色の紙帙に収め、ラベルを添付して本棚や箆筒に整理していった。これらのカードや各種控え、研究メモなどは現在も残っており、蒐書の過程をうかがわせる貴重な資料となっている。あわせて本には蔵書印が捺された。これらを見てゆくと、本によって印の種類や捺す位置に違いがあり（例えば、写本は巻頭、版本は巻頭と巻末）、新二氏のこ

わりがうかがえる。現在蔵書印の行方は不明だが、少なくとも五種類あったことがわかっている。

『伊勢物語』はさまざまな記念にも用いられた。前述の『鉄心齋文庫蔵伊勢物語通具本』（山田清市解説）は、研究発展のために鎌倉時代の写本を撮影出版したもののだが、夫妻の結婚二十年記念という性格も帯びていた。また、新二氏の誕生日には書道をたしなんだ美佐子氏が『伊勢物語』を書写して贈っており、国文研への寄贈資料にも昭和五十年から六十一年のうちの十一回分が含まれている（新二氏五十一歳～六十三歳）。

平成元年（一九八九）一月二十一日、新二氏は六十四歳で逝去する。伊勢物語注釈の実態を明らかにした片桐洋一編『鉄心齋文庫伊勢物語古注釈叢刊』第一巻（八木書店）の刊行から二ヶ月後のことであった。

美佐子氏は会社経営と資料蒐集を受け継ぐ。さらに、『伊勢物語』のすばらしさを世に伝えたいという新二氏の遺志を受け、平成三年（一九九一）十一月、神奈川県小田原市に鉄心齋文庫伊勢物語文華館を開館した。以来、平成二十三年（二〇一一）十一月までの二十二年間、毎年春と秋に十日間のテーマ展示（全三十九回。平成二十三年春は東日本大震災のため中止）を開催する。その際には研究者が解説を執筆した図録『鉄心齋文庫所蔵伊勢物語図録』等が作られた。合計二十六冊に及ぶ図録は伊勢物語文華の多様さをひろく人々に伝えるものとなった。また、各地の美術館や博物館にも資料を貸し出し、研究者からの資料閲覧に応じ、関連書籍の出版を許可するなど、『伊勢物語』の普及に尽力してゆく。

その後、平成二十八年（二〇一六）三月、文庫の保存と公開を希望する美佐子氏の厚意により、一千点を超す伊勢物語資料が国文学研究資料館へ寄贈された。

（藤島）



鉄心齋文庫 五・五×一・八 糶 『旧本伊勢物語』〔九八―五五七〕



芦澤新式 一・七×一・七 糶 『旧本伊勢物語』〔九八―五五七〕



蘆沢新二 一・七×一・七 糶 『古今和歌集秘註』〔サ二―一三〇〕



芦澤蔵書 一・三×一・三 糶 『伊勢物語』〔九八―二九二〕



芦沢蔵書 二・三×一・〇 糶 『伊勢物語』〔九八―三九三〕